

# 2016年3月期決算および中期経営計画 説明会



2016年5月13日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

## Part1 2016年3月期決算

- I. 2016年3月期決算状況
- II. 2017年3月期業績予想

## Part2 中期経営計画

- I. 第三次中期経営計画の振り返り
- II. 第四次中期経営計画

## Part 1 2016年3月期決算

### I. 2016年3月期 決算状況

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要            | P.04 |
| 2. 売上高・利益           | P.05 |
| 3. セグメント別業績         | P.07 |
| 4. 貸借対照表            | P.17 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.18 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書     | P.19 |

### II. 2017年3月期 業績予想

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 売上高・利益           | P.21 |
| 2. セグメント別業績         | P.22 |
| 3. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.23 |

## Part 2 中期経営計画

### I. 第三次中期経営計画の振り返り

- |            |      |
|------------|------|
| 1. 経営目標と実績 | P.25 |
|------------|------|

### II. 第四次中期経営計画

- |             |      |
|-------------|------|
| 1. 概要       | P.30 |
| 2. セグメント別計画 | P.39 |

## 経営環境

国内経済は、2015年4月の軽自動車税増税や夏場の天候不順に加え、暖冬の影響などにより個人消費が低迷、また円高・株安の進行もあり、景気は減速したまま推移した。

世界経済は、中国では投資抑制や株価急落など景気が一段と減速、東南アジア各国でも成長ペースが鈍化した。また、米国でも設備投資が低迷した。以上の結果、全般的に減速したまま推移した。

## 業績の概要

売上高は、海外では為替の円安による影響で増加したものの、国内では携帯電話の基地局向け電源装置や太陽光発電用電源装置の販売低迷、車載用リチウムイオン電池の販売減少により、前年同期比で減少した。

営業利益は、主としてリチウムイオン電池事業の収益性改善により過去最高となった。経常利益は、海外拠点での現地通貨安による為替差損の発生により減少した。親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失として海外における連結子会社の事業清算による整理損や減損損失を計上したこともあり減少した。

## 2. 売上高・利益

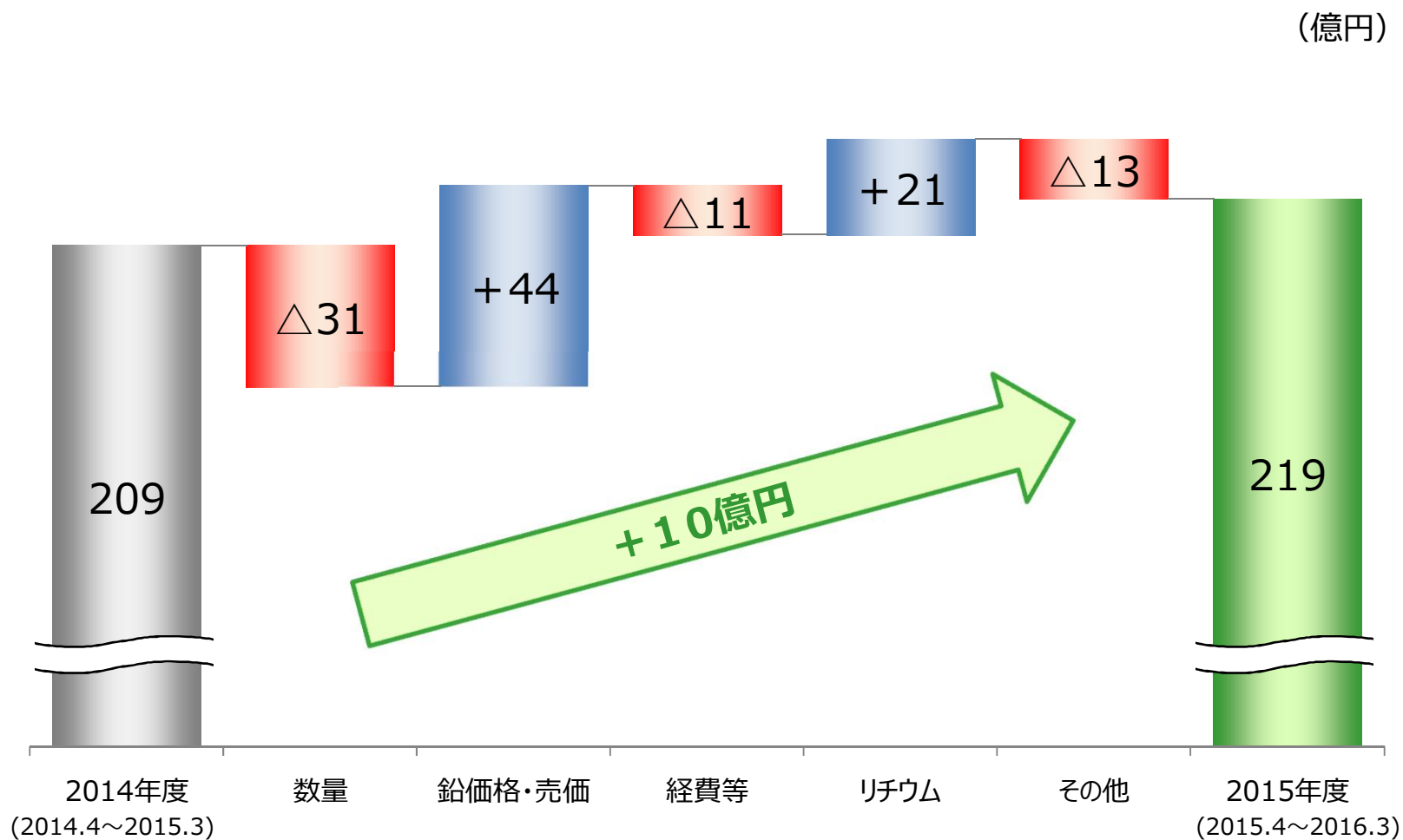
(億円)

	2014年度 (2014.4~2015.3)	2015年度 (2015.4~2016.3)	増減 (前期比)
売上高	3,698	3,656	△42 (△1.1%)
営業利益 (営業利益率)	209 5.7%	219 6.0%	+10 (+4.8%) +0.3P
経常利益	224	214	△10 (△4.2%)
特別利益	9	3	△6
特別損失	57	48	△9
税前当期純利益	176	170	△6
法人税等	93	65	△28
非支配株主に帰属する 当期純利益	△17	14	+31
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	100 2.7%	90 2.5%	△10 (△10.1%) △0.2P
配当	10円/株	10円/株 (予定)	±0円 /株

# I. 2016年3月期 決算状況

## 2. 売上高・利益

### 営業利益増減要因



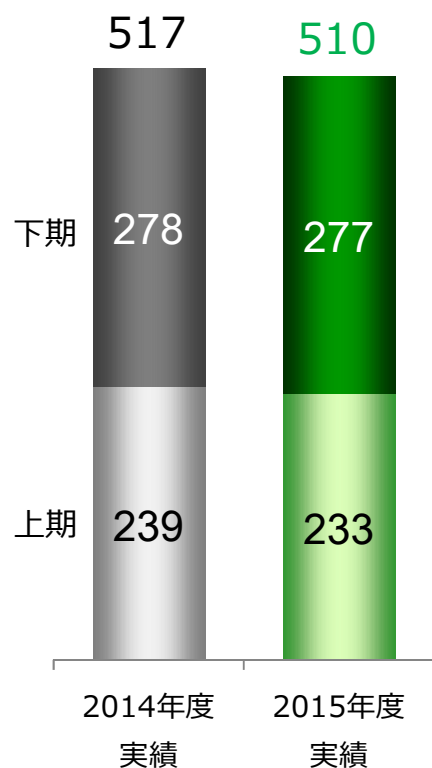
## 連結業績

(億円)

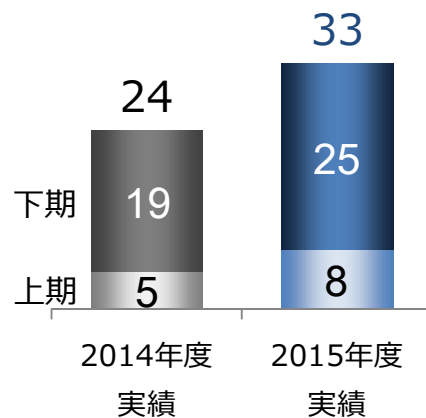
	2014年度 (2014.4~2015.3)		2015年度 (2015.4~2016.3)		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)
国内自動車電池	517	24 (4.6)	510	33 (6.5)	△7	+9 (+1.9P)
国内産業電池電源	798	87 (10.8)	748	81 (10.8)	△50	△6 (△0.0P)
海外	1,838	108 (5.9)	1,914	114 (5.9)	+76	+6 (+0.0P)
リチウムイオン電池	452	△26 (△5.8)	383	△6 (△1.5)	△69	+20 (+4.3P)
その他	92	17 (18.4)	101	△2 (△2.3)	+9	△19 (△20.7P)
合計	3,698	209 (5.7)	3,656	219 (6.0)	△42	+10 (+0.3P)

## 国内自動車電池

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



2015年度商況

- 自動車生産台数の低迷により新車メーカー向け販売は伸び悩み
- 暖冬により補修向け販売は減少
- 前年度実施した補修用電池の価格改定により収益改善

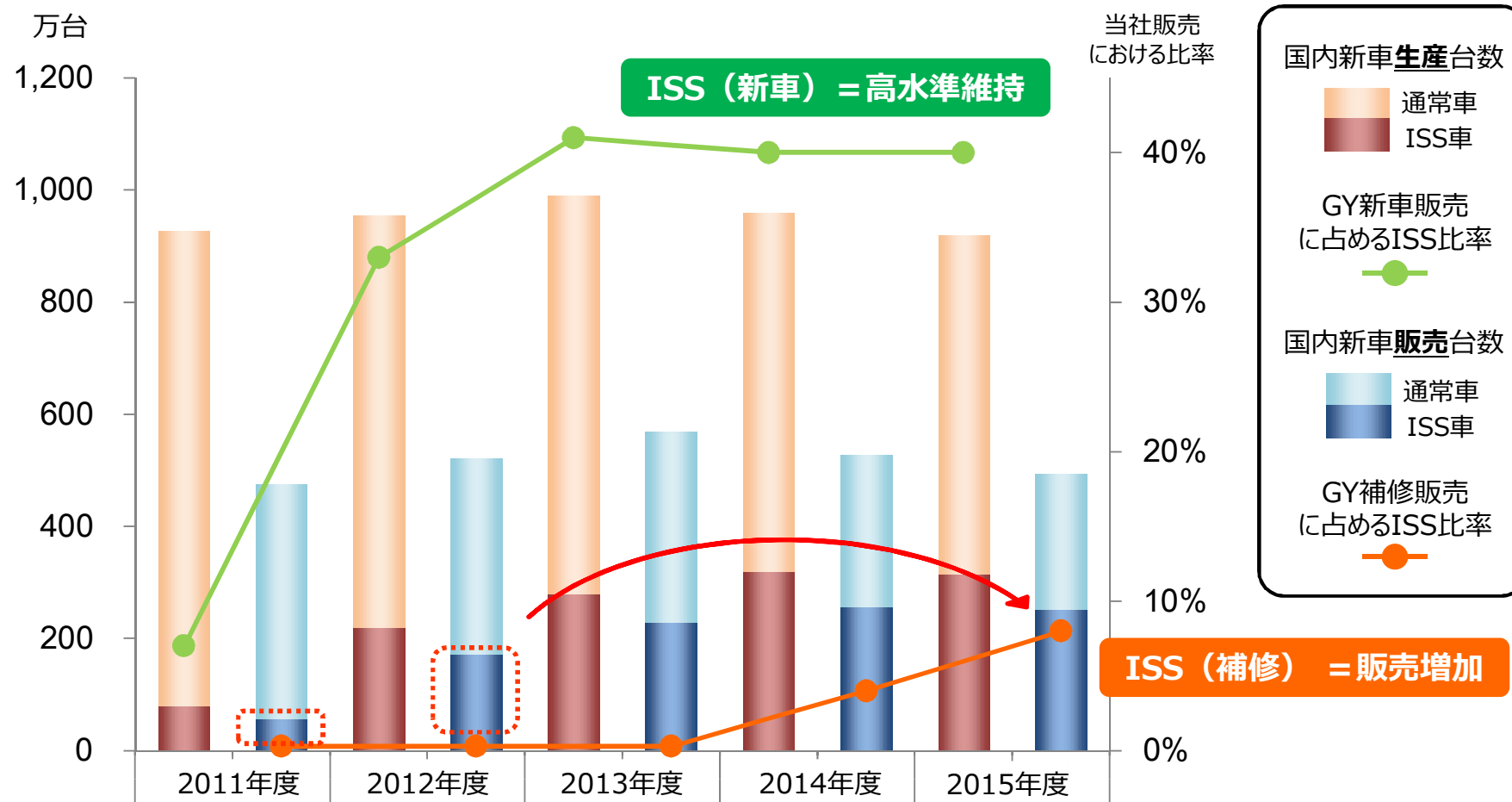
増減益要因 (億円)

数量	△9
鉛価格・売価	+16
合理化等	+1



## 国内自動車電池

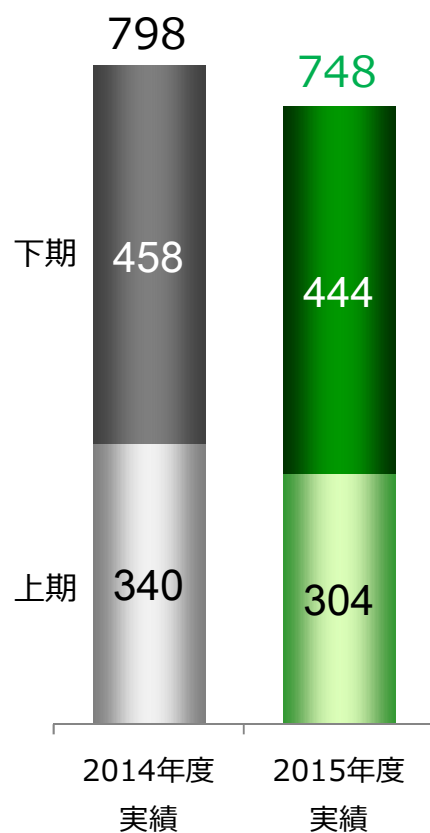
### ➤ アイドリングストップ<sup>®</sup> (ISS) 車の補修販売は順調に拡大



## 国内産業電池電源

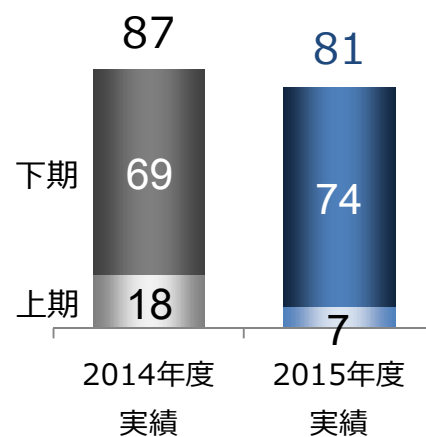
### 売上高

(億円)



### 営業利益

(億円)



### 2015年度商況

- 携帯電話の基地局向け電源装置の販売は、需要が一巡したため減少
- パワーコンディショナの販売は、電力会社の接続保留の問題などにより減少
- デジタルカメラ用充電器の販売は減少
- フォークリフト用鉛蓄電池の販売は好調維持

### 増減益要因

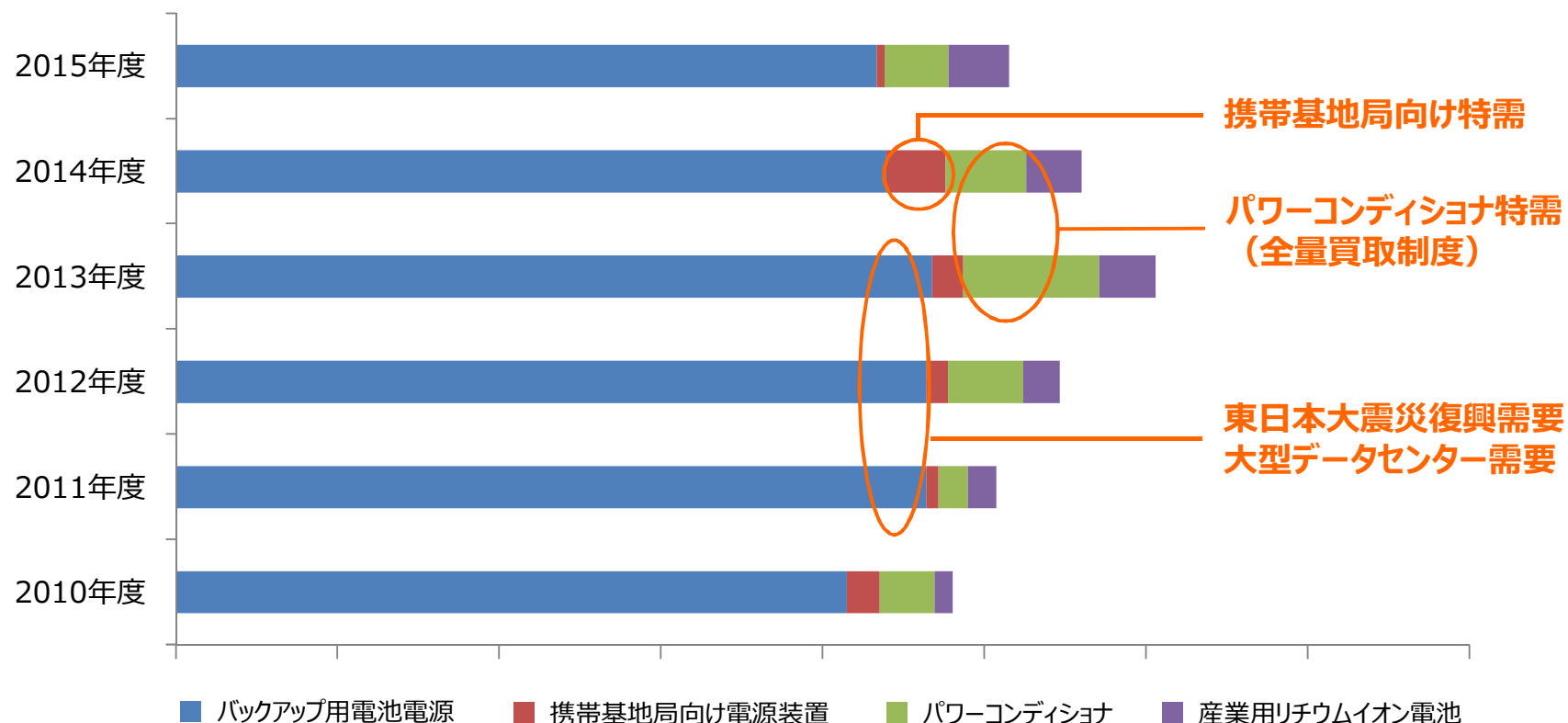
(億円)

数量	△8
鉛価格・売価	+4
経費等	△2

## 国内産業電池電源

### ➤ バックアップ用電池電源と産業リチウムイオン電池でカバーする計画が未達

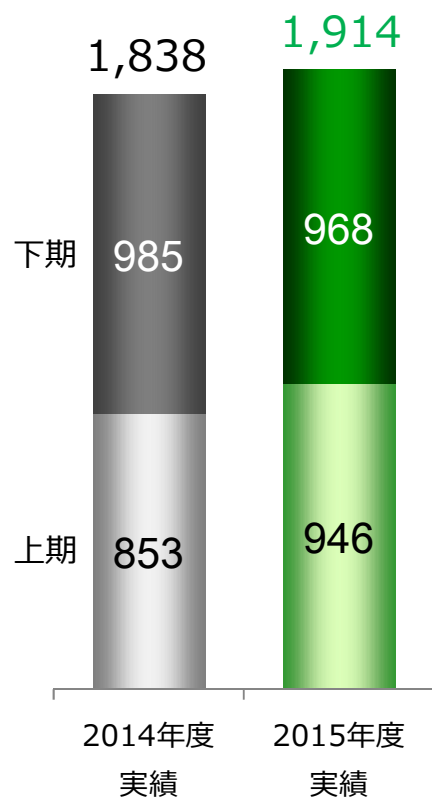
- ✓ バックアップ用電池電源は東日本大震災前の水準まで減少
- ✓ 産業用リチウムイオン電池は微増に留まる



## 海外

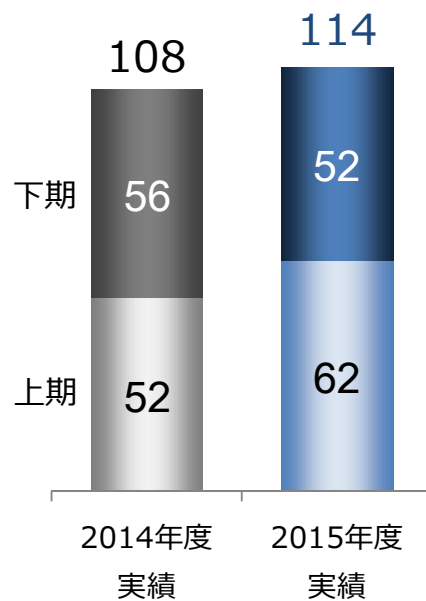
### 売上高

(億円)



### 営業利益

(億円)



### 2015年度商況

- 欧州では自動車用鉛電池の補修向け販売が増加
- 中国、タイ、インドネシアでは販売が減少
- 為替影響により増収

### 増減益要因

(億円)

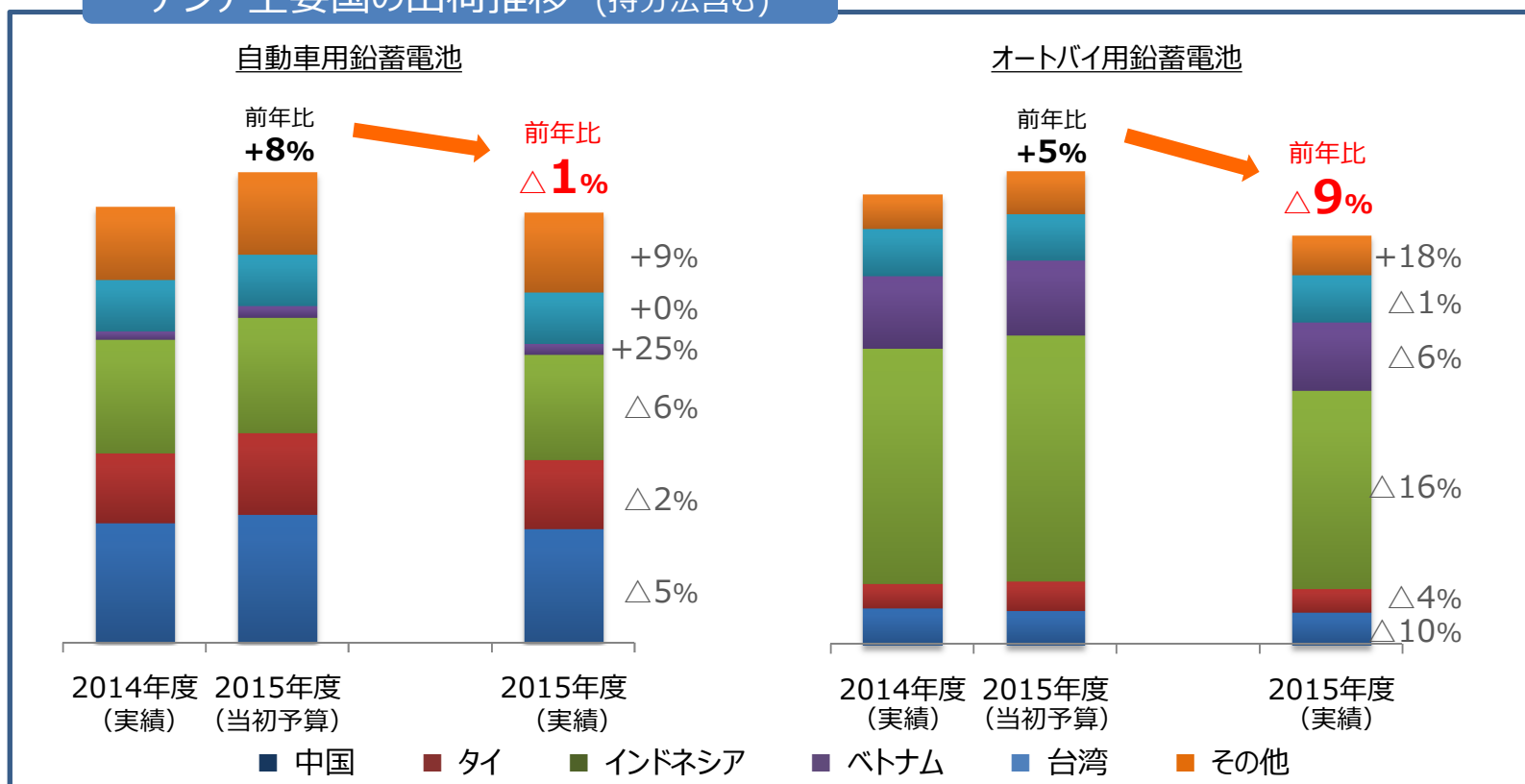
数量	△14
鉛価格・売価	+24
人件費・費用等	△4

## 海外

### ➤ アジア主要国の出荷量は自動車用、オートバイ用ともに前年割れ

- ✓ 自動車用は、前年比+8%を見込んでいたが微減
- ✓ オートバイ用は、前年比+5%を見込んでいたが大幅に減少

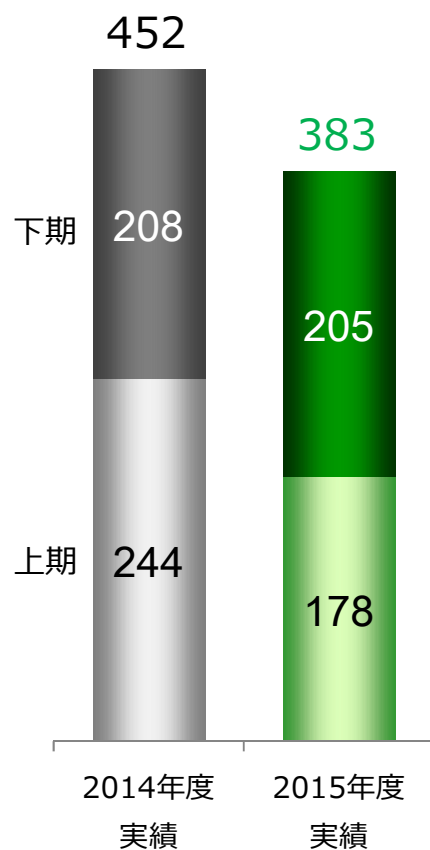
アジア主要国の出荷推移 (持分法含む)



## リチウムイオン電池

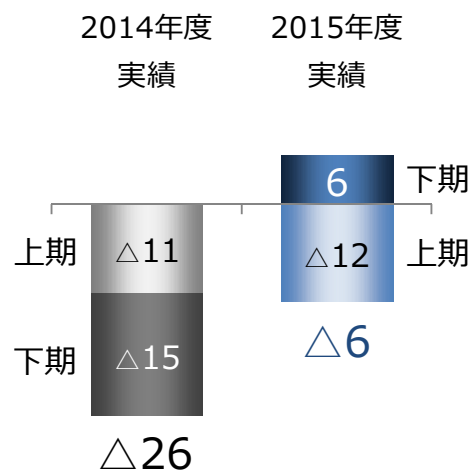
### 売上高

(億円)



### 営業利益

(億円)



### 2015年度商況

- リチウムエナジー・ジャパン (LEJ)  
国内外メーカー向けプラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売は増加
- ブルーエナジー (BEC)  
国内自動車販売の低迷により、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売は大幅に減少

### 増減益要因

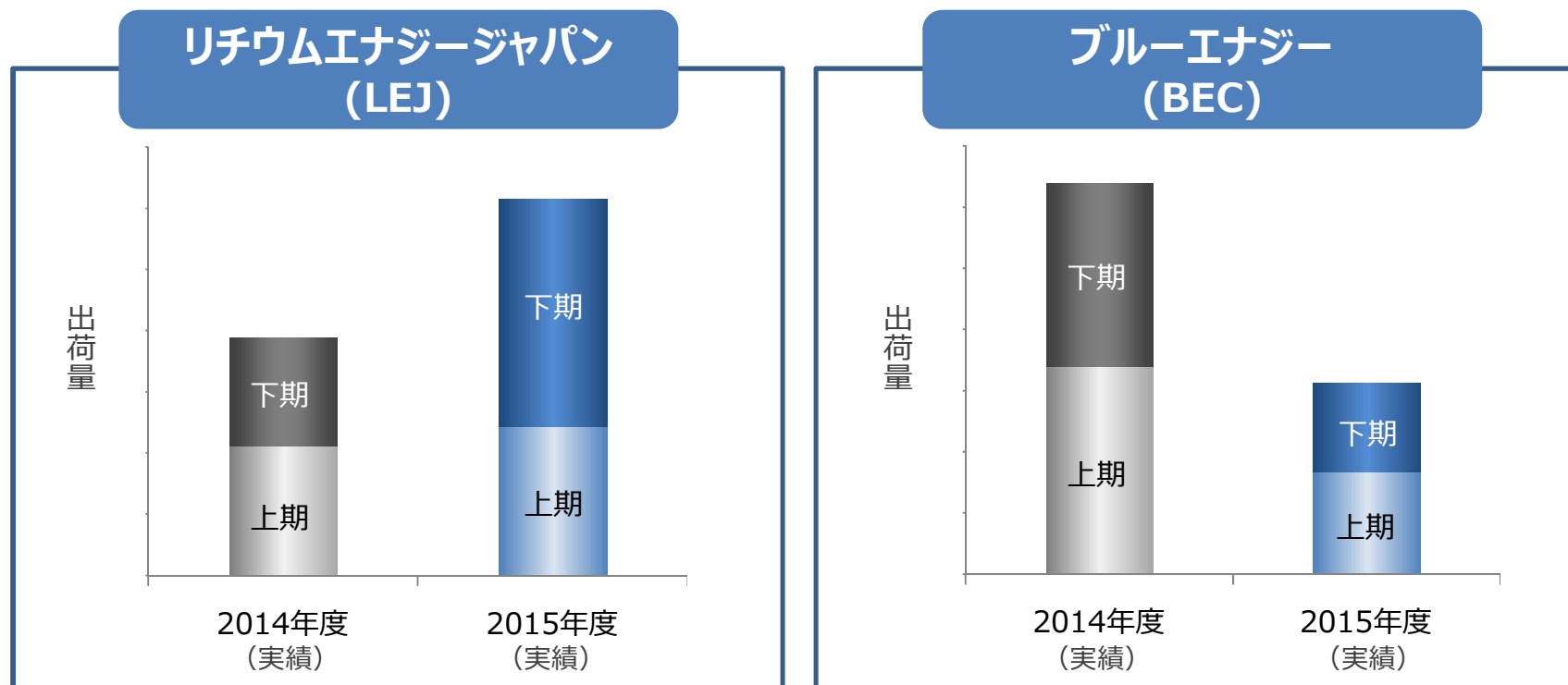
販売減少を生産の効率化によりカバーし、収益性を大幅に改善

### 3. セグメント別業績

## リチウムイオン電池

### ➤ 大幅に赤字を縮小し、ブレークイーブンに手が届く状況となった

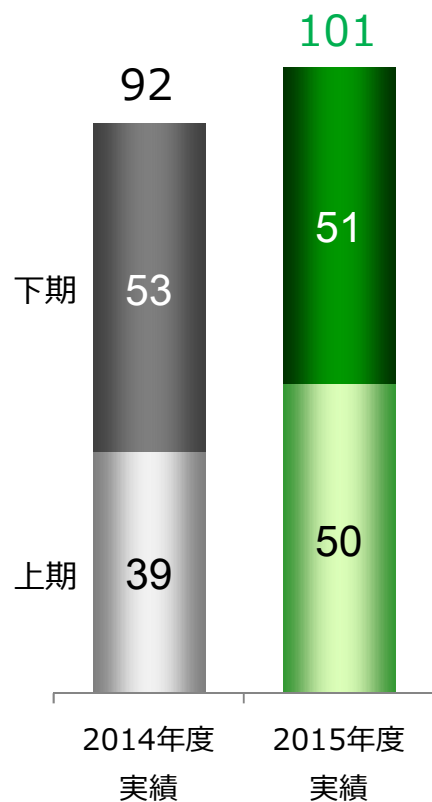
- ✓ LEJは欧州向けPHEV用リチウムイオン電池の出荷量が約6倍になるなど、  
トータル出荷量が約50%増加
- ✓ BECは出荷量が半減程度に留まった



その他

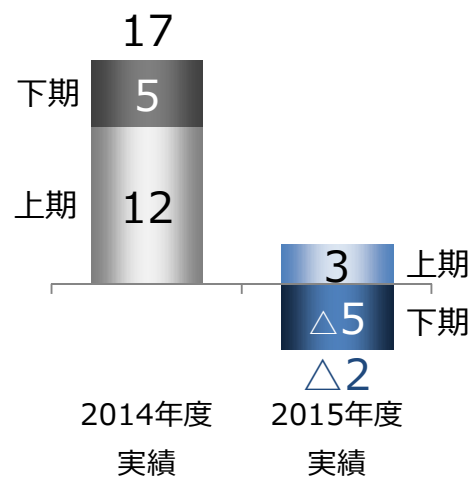
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



増減益要因

特殊電池の販売が堅調

次世代に向けた研究開発費の負担が増加



# I. 2016年3月期 決算状況

## 4. 貸借対照表

(億円)

	2015/3末	2016/3末	増減額		2015/3末	2016/3末	増減額
流動資産	1,773	1,758	△15	負債	1,773	1,687	△86
・現金及び預金			+38	・支払手形及び買掛金			+18
・受取手形及び売掛金			△65	・借入金及びCP			△86
売上債権の圧縮 国内産業電池電源事業の売上減少				・未払金			+24
・たな卸資産			+12	・繰延税金負債			△33
固定資産	1,822	1,707	△115	純資産	1,822	1,778	△44
・有形固定資産			△76	・利益剰余金			+49
設備投資額を上回る減価償却費・減損損失を計上				・為替換算調整勘定			△49
・投資有価証券			+22	・退職給付に係る調整累計額			△71
・退職給付に係る資産			△72	退職給付に係る資産の変化			
株価下落に伴う年金資産の変化 金利低下による退職給付債務増加							
資産	3,595	3,465	△130	負債・純資産	3,595	3,465	△130

	2015/3末	2016/3末
自己資本比率	44.9%	44.4%
ROE (自己資本利益率)	6.7%	5.7%

## 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2014年度 (2014.4~2015.3)	2015年度 (2015.4~2016.3)
<b>設備投資額</b>	110	130
リチウムイオン電池事業	19	27
海外事業	40	25
国内既存事業、その他	51	77
<b>減価償却費</b>	157	153
うち、リチウムイオン電池	60	52
<b>研究開発費</b>	67	70
(売上高研究開発費率)	(1.8%)	(1.9%)

(億円)

**営業C / F 302**

・税金等調整前利益	170
・減価償却費	160
・売上債権の減少	42
・たな卸資産の増加	△28
・仕入債務の増加	28
・法人税等の支払	△46

**投資C / F △173**

・有形固定資産取得	△105
・投資有価証券取得	△50

**財務C / F △97**

・借入金の減少	△74
・配当金の支払	△41
・連結子会社増資に伴う 非支配株主からの収入	41

**現金および現金同等物の残高**

期首	257	期末	278
----	-----	----	-----

**フリーC / F ※1 129****ポイント**

- 営業C / Fは前年同期197億円を大幅に超える302億円を確保できた。
- リチウムイオン電池への投資がピークアウトしてフリーC / Fが増加したため、借入金の返済に充当した。その結果、キャッシュの期末残高は278億円となった。

※1：営業活動によるC / Fと投資活動によるC / Fの合計

## Part 1 2016年3月期決算

### I. 2016年3月期 決算状況

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要            | P.04 |
| 2. 売上高・利益           | P.05 |
| 3. セグメント別業績         | P.07 |
| 4. 貸借対照表            | P.17 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.18 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書     | P.19 |

### II. 2017年3月期 業績予想

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 売上高・利益           | P.21 |
| 2. セグメント別業績         | P.22 |
| 3. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.23 |

## Part 2 中期経営計画

### I. 第三次中期経営計画の振り返り

- |            |      |
|------------|------|
| 1. 経営目標と実績 | P.25 |
|------------|------|

### II. 第四次中期経営計画

- |             |      |
|-------------|------|
| 1. 概要       | P.30 |
| 2. セグメント別計画 | P.39 |

## II. 2017年3月期 業績予想

### 1. 売上高・利益

	2015年度 (2015.3~2016.3) 実績	2016年度 (2016.4~2017.3) 予想	増減 (億円)
売上高	3,656	4,100	+444
営業利益 (営業利益率)	219 6.0%	245 6.0%	+26 △0.0P
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	- -	260 6.3%	- -
経常利益	214	240	+26
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	90 2.5%	120 2.9%	+30 +0.4P
のれん等償却前 親会社株主に帰属する当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	- -	140 3.4%	- -
配当	10 円/株 (予定)	10 円/株 (予想)	±0円/株
国内鉛建値 (万円/t)	27.35	27.0	-
LME (US\$/t)	1,786	1,800	-
為替 (円/US\$)	121.03	115.0	-

(注) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しています。

## 2. セグメント別業績

(億円)

	2015年度 (2015.4~2016.3) 実績		2016年度 (2016.4~2017.3) 予想		増減	
	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率)
国内自動車電池	510	33 (6.5)	750	58 (7.7)	+240	+25 (+1.2P)
国内産業電池電源	748	81 (10.8)	790	90 (11.4)	+42	+9 (+0.6P)
海外	1,914	114 (5.9)	2,040	112 (5.5)	+126	△2 (△0.4P)
車載用 リチウムイオン電池	383	△6 (△1.5)	430	5 (1.2)	+47	+11 (+2.7P)
その他	101	△2 (△2.3)	90	△5 (△5.6)	△11	△3 (△3.3P)
合計	3,656	219 (6.0)	4,100	260 (6.3)	+444	+41 (+0.3)

(注1) 2016年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

### 3. 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)

	2015年度 (2015.4~2016.3) 実績	2016年度 (2016.4~2017.3) 予想	増減
<b>設備投資額</b>	130	330	+200
国内自動車電池	15	20	+5
国内産業電池電源	13	20	+7
海外	25	100	+75
車載用リチウムイオン電池	27	40	+13
その他	49	150	+101
<b>減価償却費</b>	153	170	+17
うち、車載用リチウムイオン電池	52	55	+3
<b>研究開発費</b>	70	70	+0
(売上高研究開発費率)	(1.9%)	(1.7%)	(△0.2%)

(注) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しています。

## Part 1 2016年3月期決算

### I. 2016年3月期 決算状況

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要            | P.04 |
| 2. 売上高・利益           | P.05 |
| 3. セグメント別業績         | P.07 |
| 4. 貸借対照表            | P.17 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.18 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書     | P.19 |

### II. 2017年3月期 業績予想

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 売上高・利益           | P.21 |
| 2. セグメント別業績         | P.22 |
| 3. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.23 |

## Part 2 中期経営計画

### I. 第三次中期経営計画の振り返り

- |            |      |
|------------|------|
| 1. 経営目標と実績 | P.25 |
|------------|------|

### II. 第四次中期経営計画

- |             |      |
|-------------|------|
| 1. 概要       | P.30 |
| 2. セグメント別計画 | P.39 |



# I. 第三次中期経営計画の振り返り

## 1. 経営目標と実績

(億円)

	2015年度 (2015.4~2016.3)		達成率
	最終目標	実績	
売上高	4,500	3,656	81%
営業利益率	8% (360)	6.0% (219)	△2.0P (61%)
親会社に帰属する 当期純利益率	5% (230)	2.5% (90)	△2.5P (39%)
ROE (自己資本利益率)	15% 以上	5.7%	△9.3P
キャッシュフロー対 有利子負債比率 (年)	2.0 以下	2.5	△0.5

		国内 自動車電池	国内産業 電池電源	海外	リチウムイオン 電池	その他	連結合計
2015年度 (2015.4~2016.3) 最終目標	売上高	620	870	2,280	600	130	4,500
	営業利益	65	125	155	10	5	360
2015年度 (2015.4~2016.3) 実績	売上高	510	748	1,914	383	101	3,656
	営業利益	33	81	114	△6	△2	219
差異	売上高	△110	△122	△366	△217	△29	△844
	営業利益	△32	△44	△41	△16	△7	△141

## 事業環境

	売上高	営業利益
国内自動車電池	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 増税により新車販売台数は減少</li> <li>● カーナビのディーラーオプション化が定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円安により原材料価格が上昇し、売価転嫁に遅れ</li> <li>● ISS新車需要は堅調で、シェア拡大に向けて取り組み実施</li> <li>● ISS補修需要の本格化遅れ</li> </ul>
国内産業電池電源	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災を契機とした特需終息</li> <li>● 電力会社の接続保留問題により太陽光発電用パワーコンディショナ需要が減少</li> <li>● 産業用リチウムイオン電池は本格的な市場形成に至らなかったが供給体制を整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 円安により原材料価格が上昇</li> <li>● 需要減少による競争激化で売価低下</li> </ul>
海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 欧米の景気は回復基調</li> <li>● 中国の環境規制問題、電動バイクの普及</li> <li>● タイ、インドネシアの景気回復遅れ</li> <li>● タイの持分法適用会社を連結子会社化</li> <li>● トルコのInci社に資本参加し、グローバル展開を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国、アセアンにおける人件費の上昇</li> <li>● オートバイ用鉛電池の需要が想定通りに伸びず、利益額が減少</li> </ul>
リチウムイオン電池	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先進国で排出ガス規制の強化</li> <li>● 環境対応車の普及は想定より遅い</li> <li>● 既存顧客の販売不振</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大手メーカー、海外メーカーとの熾烈な競争</li> <li>● 生産効率化と合理化が進展</li> </ul>

**環境変化に対する臨機応変な対応・事業展開が不十分**

## 投資・減価償却費

(億円)

	第二次中期経営計画 (2010～2012年度)	第三次中期経営計画 (2013～2015年度)	
	実績 (3ヵ年合計)	計画 (3ヵ年合計)	実績 (3ヵ年合計)
<b>投資額</b>	920	600	520
リチウムイオン電池	655	120	132
海外	112	260	198
国内既存事業、その他	153	220	190
<b>減価償却費</b>	347	410	439
うち、リチウムイオン電池	123	160	161

# I. 第三次中期経営計画の振り返り

## 1. 経営目標と実績

### 財務施策

	2012年度	2015年度	
	実績	最終目標	実績
有利子負債	717 億円	600 億円 以下	736 億円
自己資本比率	43.2 %	45 % 以上	44.4 %
1 株当たり配当額	6 円	12 円	10 円 (予定)

## Part 1 2016年3月期決算

### I. 2016年3月期 決算状況

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 業績の概要            | P.04 |
| 2. 売上高・利益           | P.05 |
| 3. セグメント別業績         | P.07 |
| 4. 貸借対照表            | P.17 |
| 5. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.18 |
| 6. キャッシュ・フロー計算書     | P.19 |

### II. 2017年3月期 業績予想

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 売上高・利益           | P.21 |
| 2. セグメント別業績         | P.22 |
| 3. 設備投資・減価償却費・研究開発費 | P.23 |

## Part 2 中期経営計画

### I. 第三次中期経営計画の振り返り

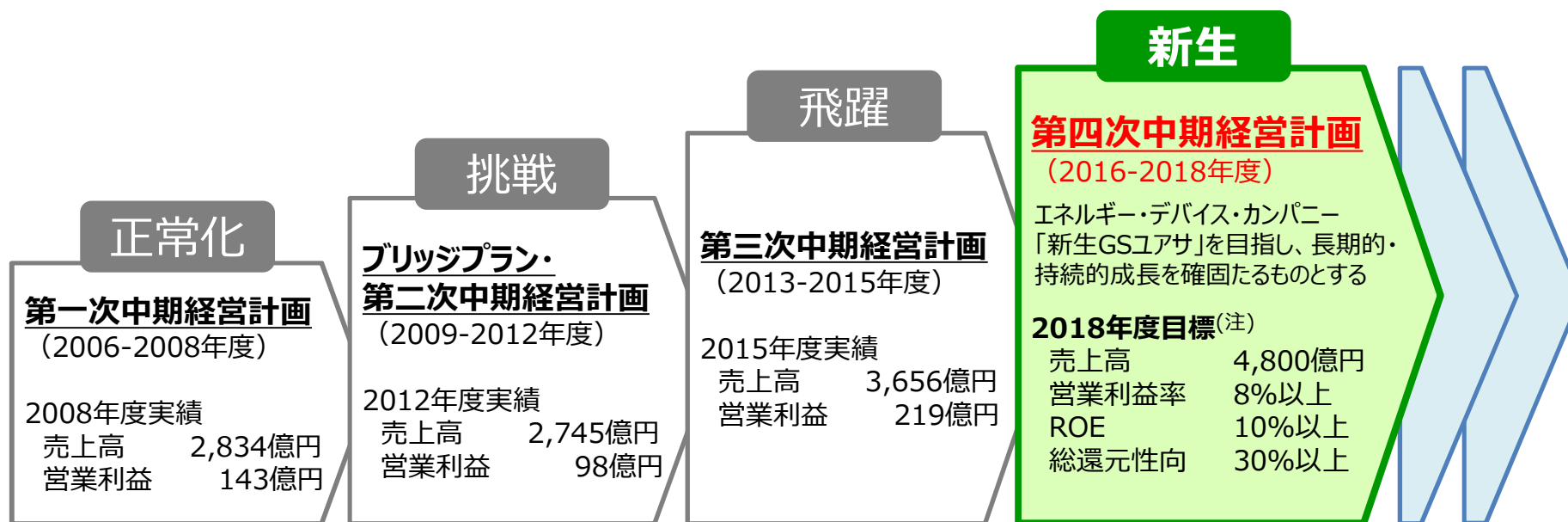
- |            |      |
|------------|------|
| 1. 経営目標と実績 | P.25 |
|------------|------|

### II. 第四次中期経営計画

- |             |      |
|-------------|------|
| 1. 概要       | P.30 |
| 2. セグメント別計画 | P.39 |

#### 長期ビジョン

- ◆ 長期経営方針 「お客様へ快適・安心を提供するエネルギー・デバイス・カンパニー」
- ◆ 長期経営目標 営業利益率 10%



(注1) 2018年度の指標はのれん償却前利益（営業利益・当期利益）に対するものです。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しています。

## 事業環境

### 国内自動車電池

- 環境対応車の普及拡大
  - ✓ 高性能・高品質な専用バッテリーの需要増加
- グローバル基準の自動車部品調達が進行
  - ✓ 海外メーカーの国内進出により競争激化

### 国内産業電池電源

- 産業用リチウムイオン電池の実用化が進展
  - ✓ 国内外において蓄電市場が顕在化
  - ✓ 海外メーカーの攻勢により市場価格の下落スピードが加速
- 自己消費型の再生可能エネルギー利用が拡大
  - ✓ 蓄電池付き太陽光発電設備の需要増加
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催
  - ✓ 東京都心部を中心に社会インフラ設備の整備計画が進行

#### 海外

- 日系自動車メーカーを中心に環境車対応の高性能電池の採用が拡大
  - ✓ 新興国でアイドリングストップ車用電池の需要拡大
- オートバイ用電池の新たな成長市場が出現
  - ✓ インド、アフリカ、中東、南米で需要拡大、中国では需要減少が加速
- 産業用電池の需要拡大
  - ✓ 新興国で通信用およびUPS用電池の需要拡大

#### 車載用リチウムイオン電池

- 環境対応車の拡大スピードが想定より遅い
  - ✓ 業界全体で過剰生産能力が生じ、コスト競争が発生
- 中国では電気自動車が急速に拡大
  - ✓ 中国への投資が加速

#### その他

- 宇宙開発利用の推進
  - ✓ 高品質な宇宙・衛星用リチウムイオン電池の需要拡大
- 防衛装備移転三原則の策定
  - ✓ 防衛装備の海外移転や国際共同開発が進展



#### 中期経営方針

**『エネルギー・デバイス・カンパニー「新生GSユアサ」を目指し、  
長期的・持続的成長を確固たるものとする。』**

- 新規事業（リチウムイオン電池事業）の黒字を確実なものとし、安定的成長軌道へ乗せる
- 成長事業（海外事業）のさらなる事業領域の拡大と収益性の向上を図る
- 既存事業（自動車電池・産業電池電源事業）のキャッシュフローを拡大・安定化させ、将来への成長投資を行う

#### 中期重要戦略課題

##### [基本戦略]

既存事業および成長事業の経営基盤・収益力強化により、  
新規事業の安定化、拡大を図り、鉛事業に次ぐ企業基盤第2の柱に育成する。

- ✓ GS YUASA品質基本方針に基づく第四次品質向上3ヶ年計画の必達
- ✓ 市場・顧客を見据えた事業体制への再編

## 経営目標

### 計画期間

2016年4月から2019年3月までの3年間

### 2018年度 (2018.4~2019.3) 最終目標 (注)

売上高	4,800 億円
営業利益率	8 %以上
ROE (自己資本利益率)	10 %以上
総還元性向	30 %以上

(注1) 上記指標はのれん償却前利益（営業利益・当期利益）に対するものです。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しています。

## 業績と経営目標

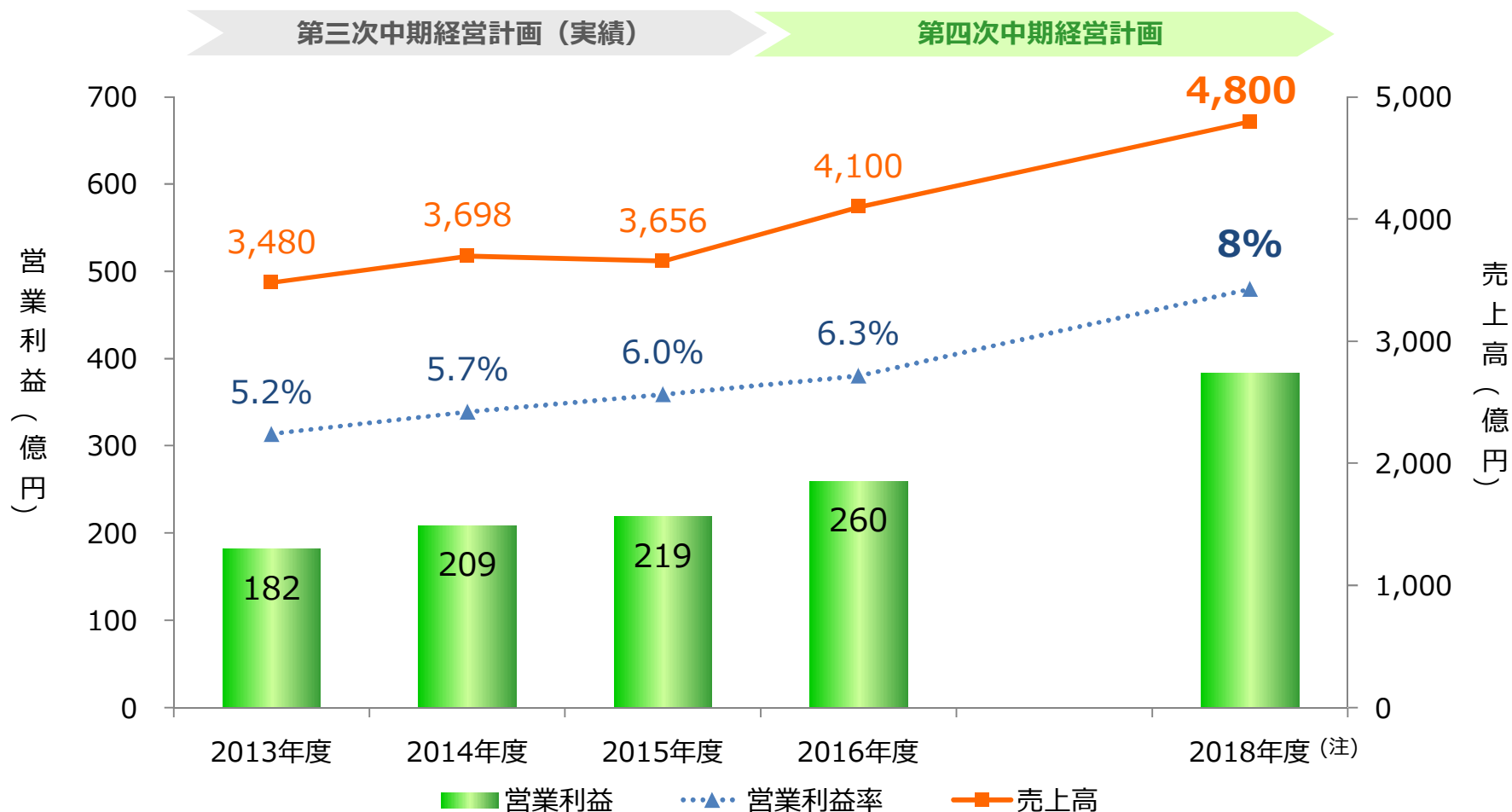
(億円)

	第三次中期経営計画 2015年度 (2015.3~2016.3)	第四次中期経営計画 2018年度 <sup>(注)</sup> (2016.4~2017.3)	増減
売上高	3,656	4,800	+1,144
営業利益率	6.0%	8%以上	-
国内鉛建値 (万円/t)	27.35	29.0	-
L M E (US\$/t)	1,786	2,000	-
為替 (円/US\$)	121.03	115.0	-

(注1) 2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 業績と経営目標



(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 財務方針

- 経営指標としてのROE（目標：10%以上）重視、投下資本に対する効率性向上の推進、および有利子負債の削減
- のれん償却前総還元性向30%以上の達成（株主への安定配当の実現および資本効率の改善）

	2015年度 実績 (2015.4~2016.3)	2018年度 目標(注) (2018.4~2019.3)
有利子負債	736億円	800億円以下
キャッシュフロー対 有利子負債比率 ※	2.5年	2.0年以下
総還元性向（総還元額）	45.7%（41億円）	30%以上（約70億円）

※ 有利子負債（リース債務含む）/営業キャッシュ・フロー

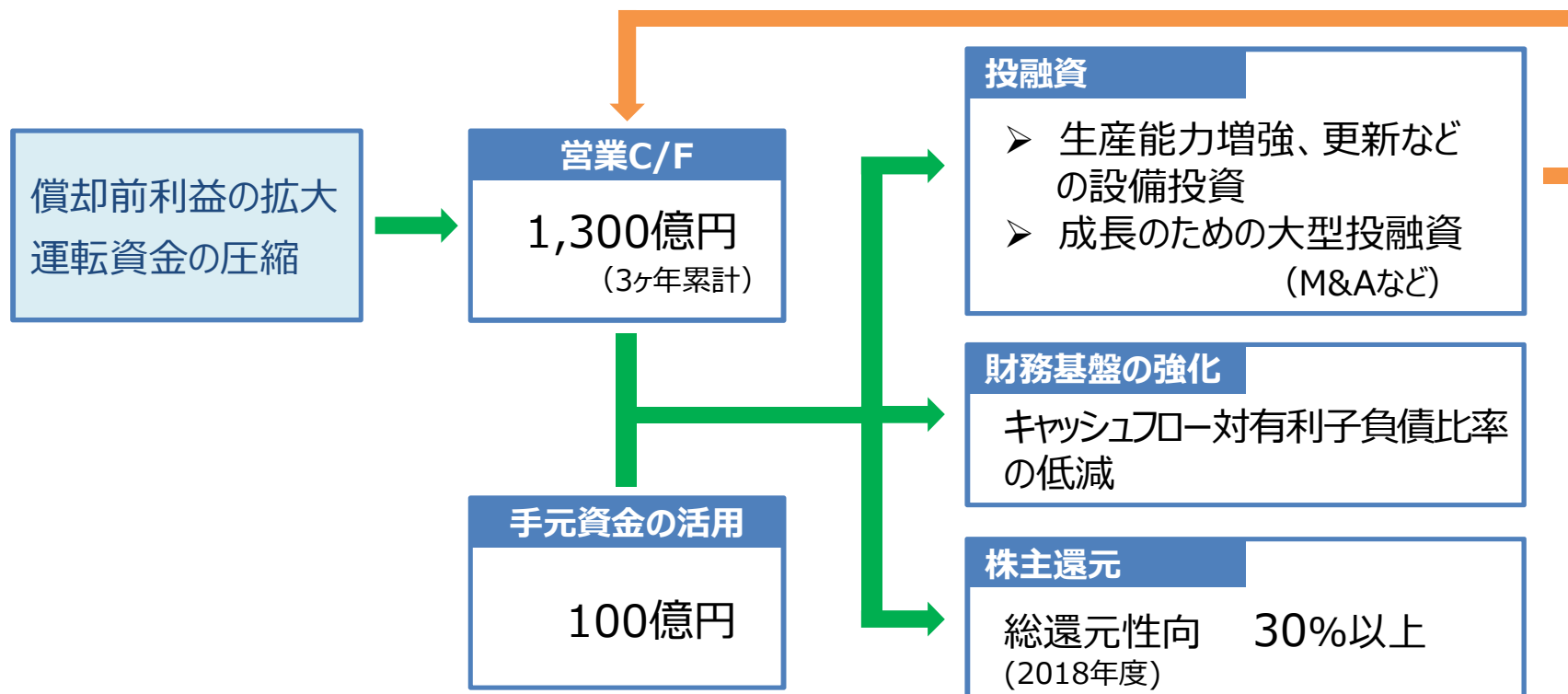
	第三次中期経営計画 3か年累計	第四次中期経営計画 3か年累計
営業キャッシュフロー	696億円	1,300億円
投資キャッシュフロー	△426億円	△1,200億円
フリーキャッシュフロー	270億円	100億円

(注1) 2018年度の総還元性向はのれん償却前総還元性向です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

### 資本政策

中長期的な成長のための投融資、成長を支えるための財務基盤の強化、適正な株主還元、これらにバランス良く配分し企業価値向上を図る



(注1) 2018年度の総還元性向はのれん償却前総還元性向です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 売上高・営業利益

(億円)

	実績		第四次中期経営計画					
	2015年度 (2015.4~2016.3)		2016年度 (2016.4~2017.3)		2018年度 (2018.4~2019.3)		増減 (2019.3 - 2016.3)	
	売上高	営業利益率 (営業利益)	売上高	営業利益率 (営業利益)	売上高	営業利益率	売上高	営業利益率
国内自動車電池	510	6.5% (33)	750	7.7% (58)	860	10%	+350	+3.5P
国内産業電池電源	748	10.8% (81)	790	11.4% (90)	900	13%	+152	+2.2P
海外	1,914	5.9% (114)	2,040	5.5% (112)	2,300	7%	+386	+1.1P
車載用 リチウムイオン電池	383	△1.5% (△6)	430	1.2% (5)	560	5%	+177	+6.5P
その他	101	△2.3% (△2)	90	△5.6% (△5)	180	-	+79	-
合計	3,656	6.0% (219)	4,100	6.3% (260)	4,800	8%	+1,144	+2.0P

(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 設備投資・減価償却費

(億円)

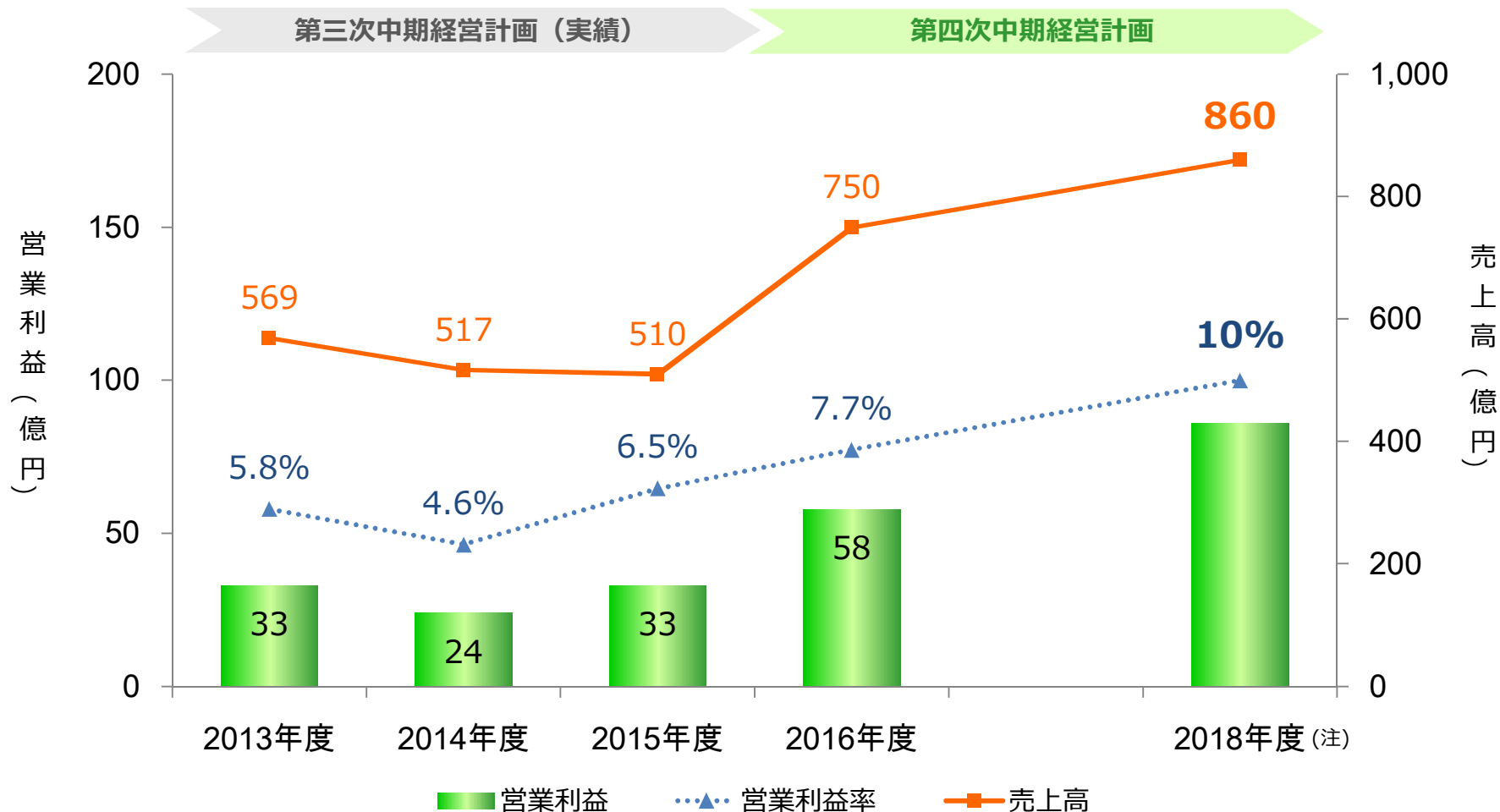
	第三次中期経営計画 3ヶ年合計 (2013.4 ~ 2016.3)	第四次中期経営計画 3ヶ年合計 (2016.4 ~ 2019.3)
国内自動車電池	34	80
国内産業電池電源	45	60
海外	122	360
車載用リチウムイオン電池	115	110
その他	109	290
設備投資額 合計	425	900
減価償却費	439	550
うち 車載用リチウムイオン電池	161	170

(注) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。



## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 国内自動車電池



(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 国内自動車電池

### 事業方針

顧客・市場における一層の信頼を獲得し、業界No.1の地位を盤石なものとする

### 戦略及び重要課題

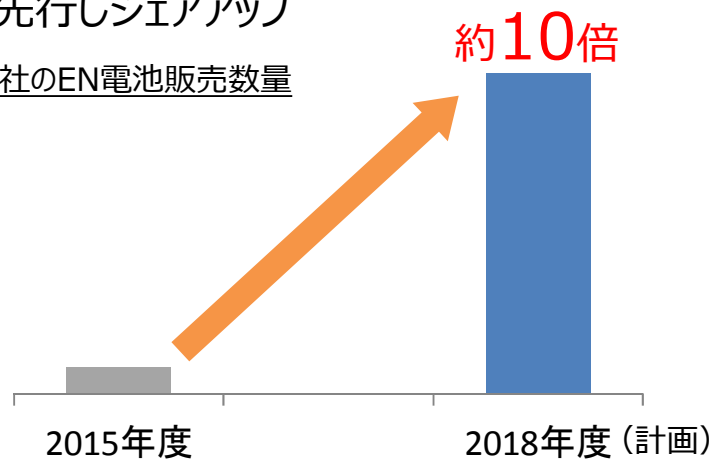
- 高性能・高品質・低コストの実現  
(Panasonic事業譲受も含めた最適生産体制の構築)
- 次世代電池の受注獲得、高付加価値電池のシェア拡大

国内自動車電池

新車

- EN規格(欧州統一規格)鉛蓄電池市場で先行しシェアアップ

当社のEN電池販売数量



納入車種(2015年度)

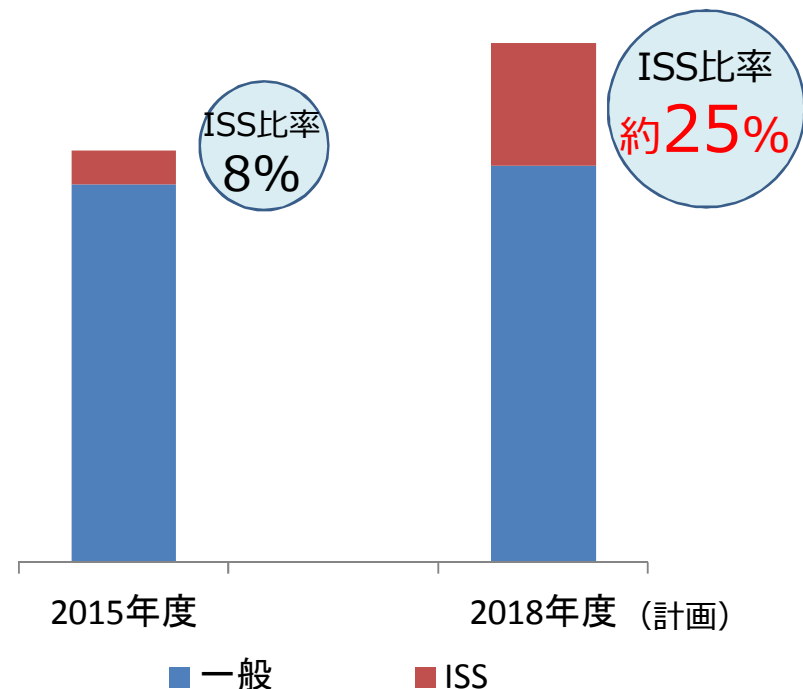


- エンジン始動用の12Vリチウムイオン電池の事業体制を構築

補修

- アイドリングストップ車向け補修需要を着実に取り込んで収益改善とシェアアップを両立

当社の補修販売数量



## 国内自動車電池

### ➤ パナソニックの鉛電池事業譲受によるシナジー効果を創出

#### ■ シナジー効果

- ・両社の技術力の相乗効果により、技術・品質・コストで評価される事業体制の構築
- ・生産技術のグローバル水平展開による生産の合理化推進
- ・当社既存工場＋浜名湖工場による最適生産体制の構築
- ・製品開発要求の多様化に対応する開発スピードの向上

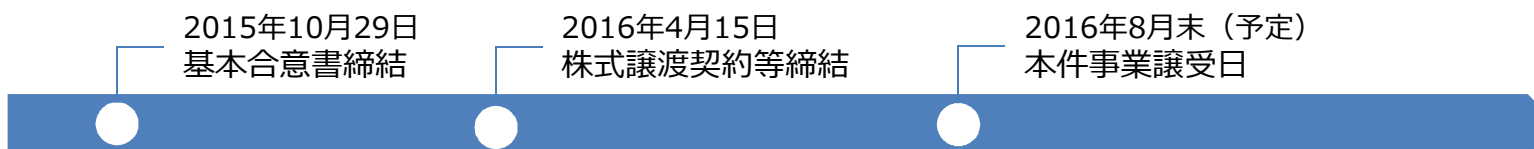
#### ■ 譲受対象

- ・パナソニック ストレージバッテリー株式会社
- ・パナソニック ストレージバッテリー瀋陽有限公司
- ・ 事業分割に多少の時間がかかる予定です パナソニック エナジー タイ株式会社の鉛蓄電池事業（乾電池事業を除く）
- ・ 譲受対象外となりました パナソニック・ミンダ ストレージバッテリー インド株式会社

#### ■ 譲受予定価格

約300億円

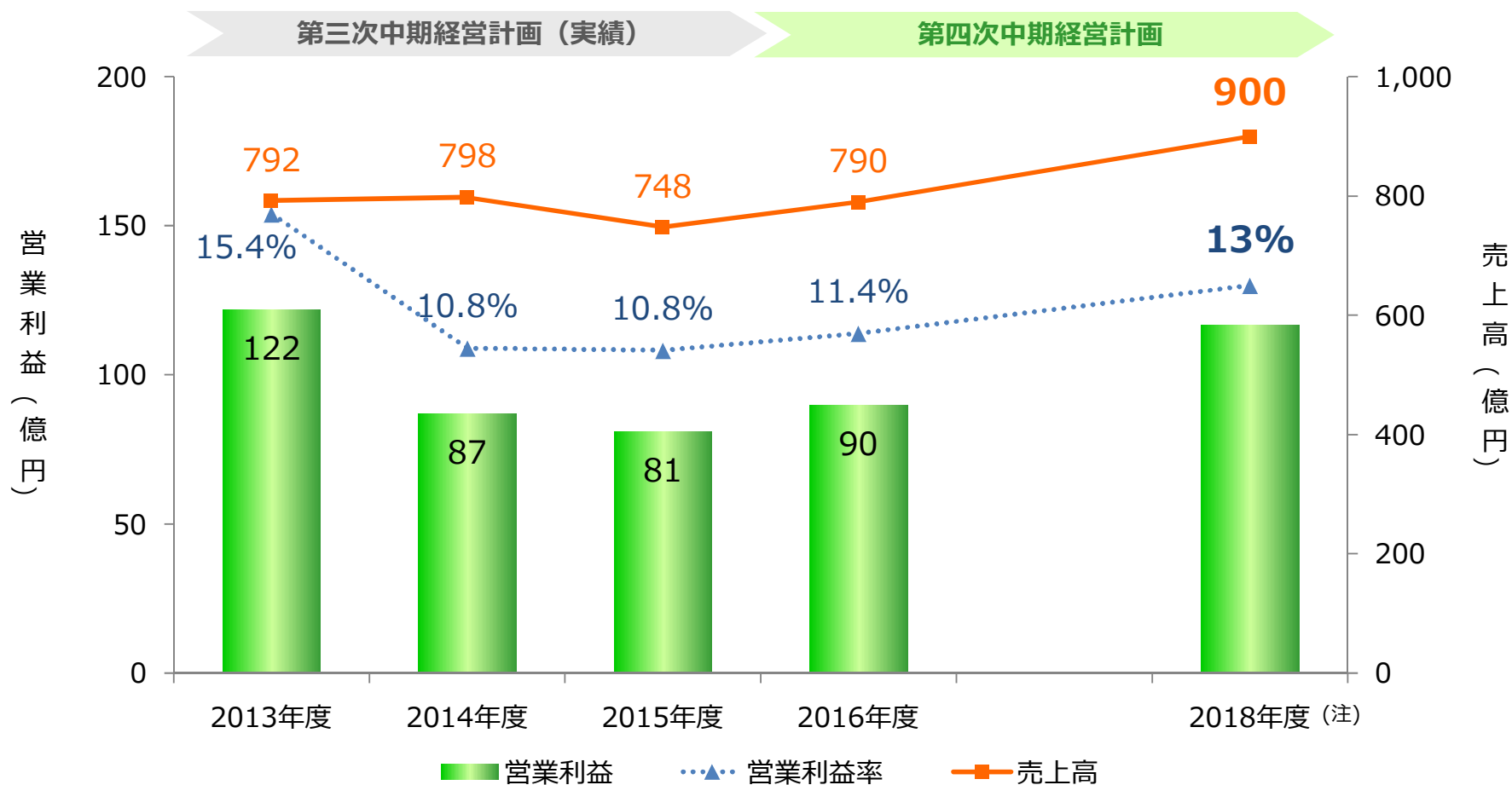
#### ■ スケジュール



(注) 各国競争法当局の認可状況等の事情によっては、事業譲受日に変更される可能性があります

## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 国内産業電池電源



(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 国内産業電池電源

### 事業方針

#### 既存事業収益の確保と新規事業の基盤構築

### 戦略及び重要課題

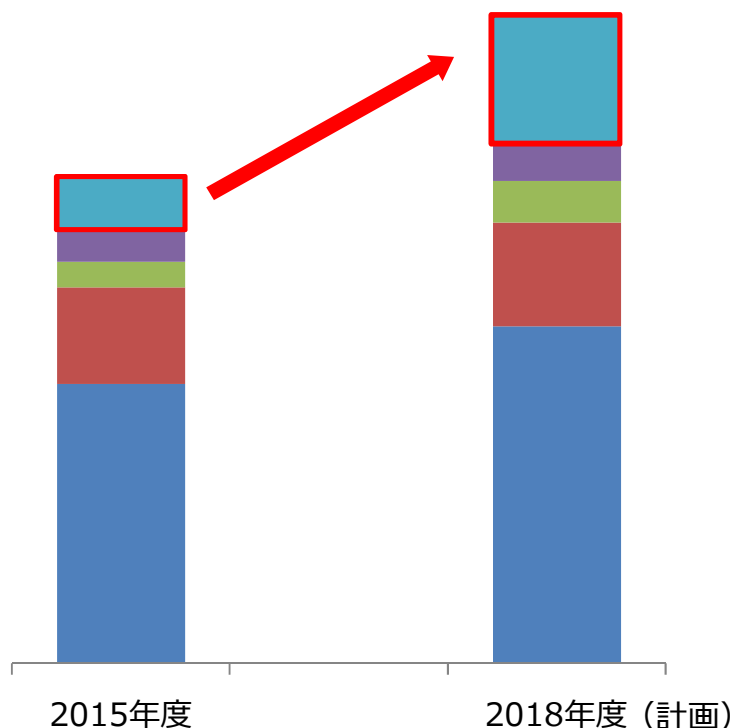
- 既存事業での生販技の競争力強化策の推進による収益確保の盤石化
- 国内外の産業用リチウム電池市場新規ビジネスへの展開  
(電力・通信用、鉄道・建機用、住宅用等)

## 国内産業電池電源

### 次世代事業育成に向けて経営資源を集中投資

- ✓ 新エネルギー分野の事業領域の拡大
- ✓ 既存分野における基盤強化と新市場・新規顧客の開拓

事業別売上高の推移



#### ■ 新エネルギー

産業用リチウムイオン電池、再生可能エネルギー関連機器

#### ■ 照明

LED対応施設照明、紫外線応用機器

#### ■ 特機

デジタルカメラ用充電器、電動機器用電池パック・充電器

#### ■ 電動車両用電池

バッテリー式フォークリフト用電池

#### ■ バックアップ

電源システム、産業用電池

## 国内産業電池電源

豊富なラインナップで各用途に最適な製品を提供

高容量タイプ



LIM50Eシリーズ



LIM40Eシリーズ

高入出力タイプ



LIM25Hシリーズ



LIM5Hシリーズ

鉄道

建設機械

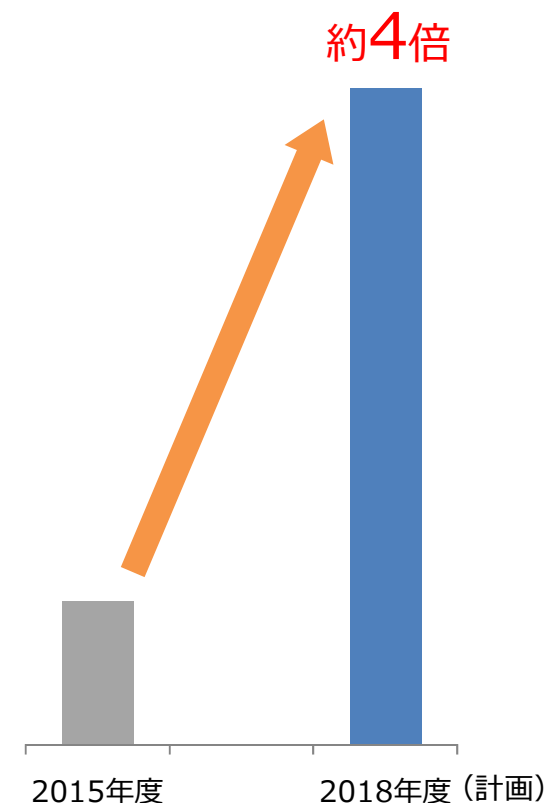
電力

住宅

通信

防災

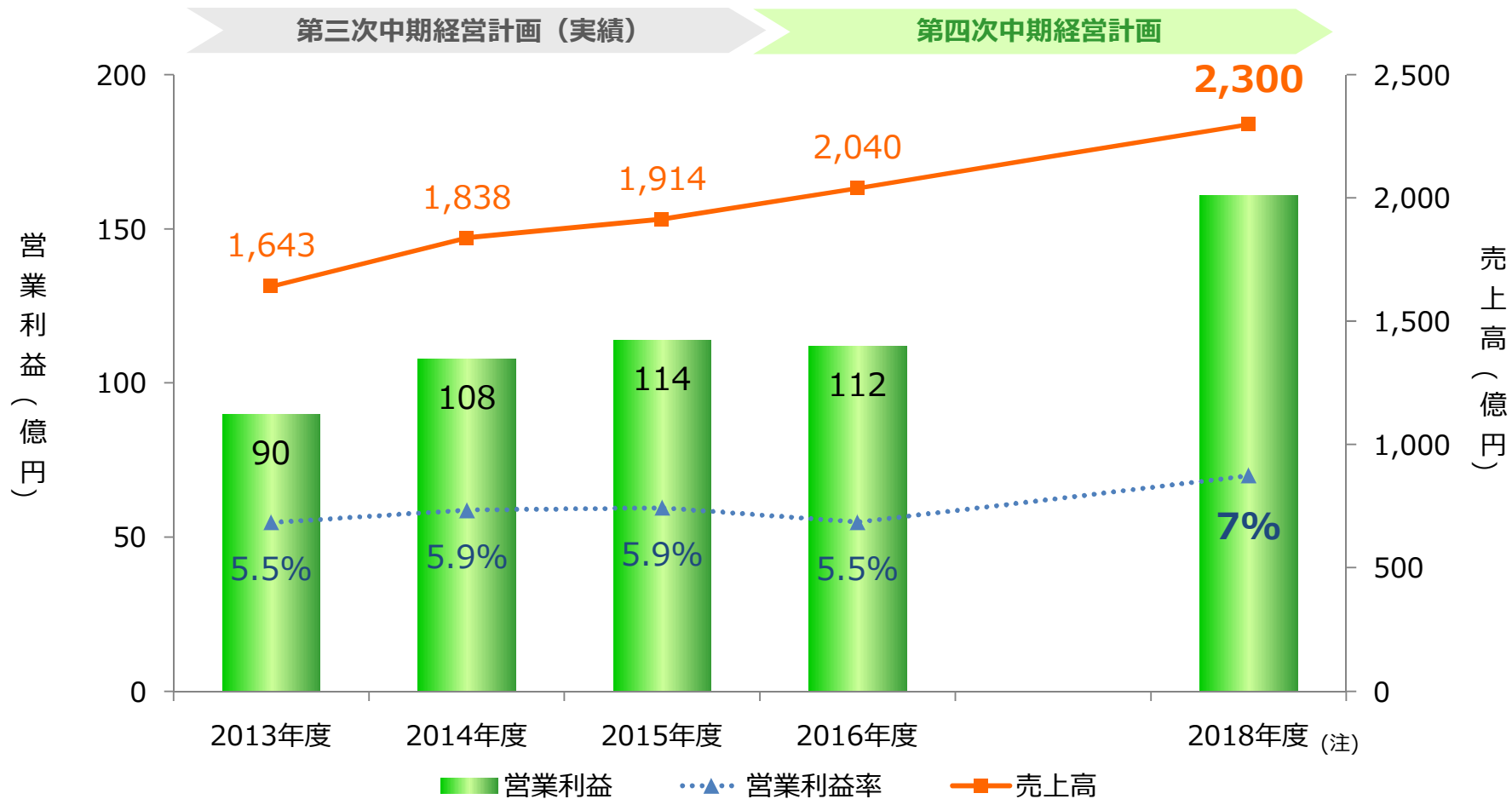
非車載用LiBの売上高推移





## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 海外



(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 海外

### 事業方針

#### アジア市場No.1の堅持とグローバル市場での躍進

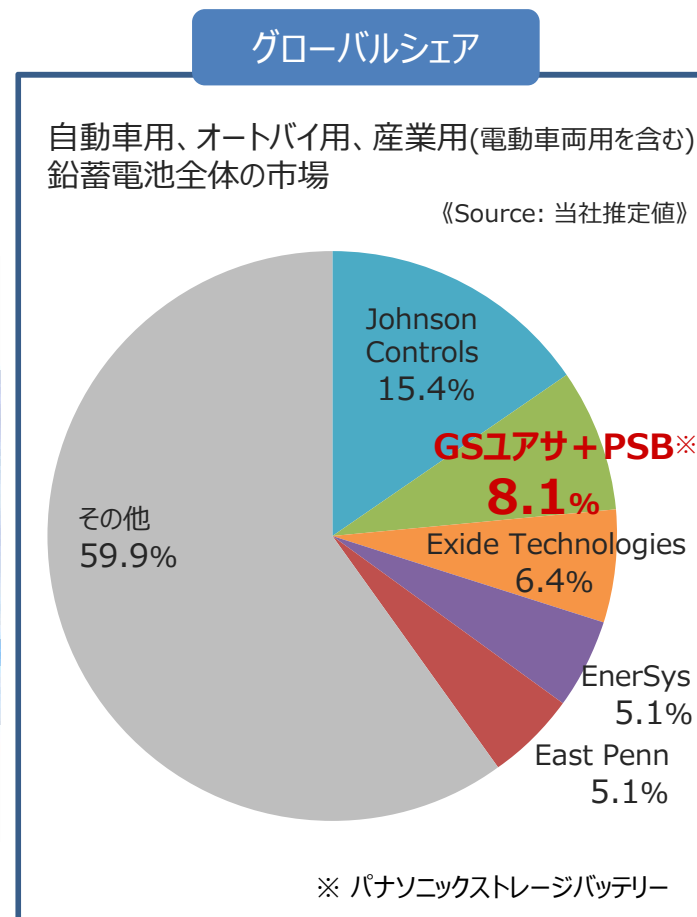
### 戦略及び重要課題

- Panasonic事業譲受による拠点活用（中国、タイ）
- 未開拓地域へのビジネス展開（アジア、アフリカ、中東、中南米等）
- 既存各拠点の収益向上、体質強化
- M&Aを活用した事業規模の拡大

海外

鉛蓄電池事業におけるグローバルシェアの拡大

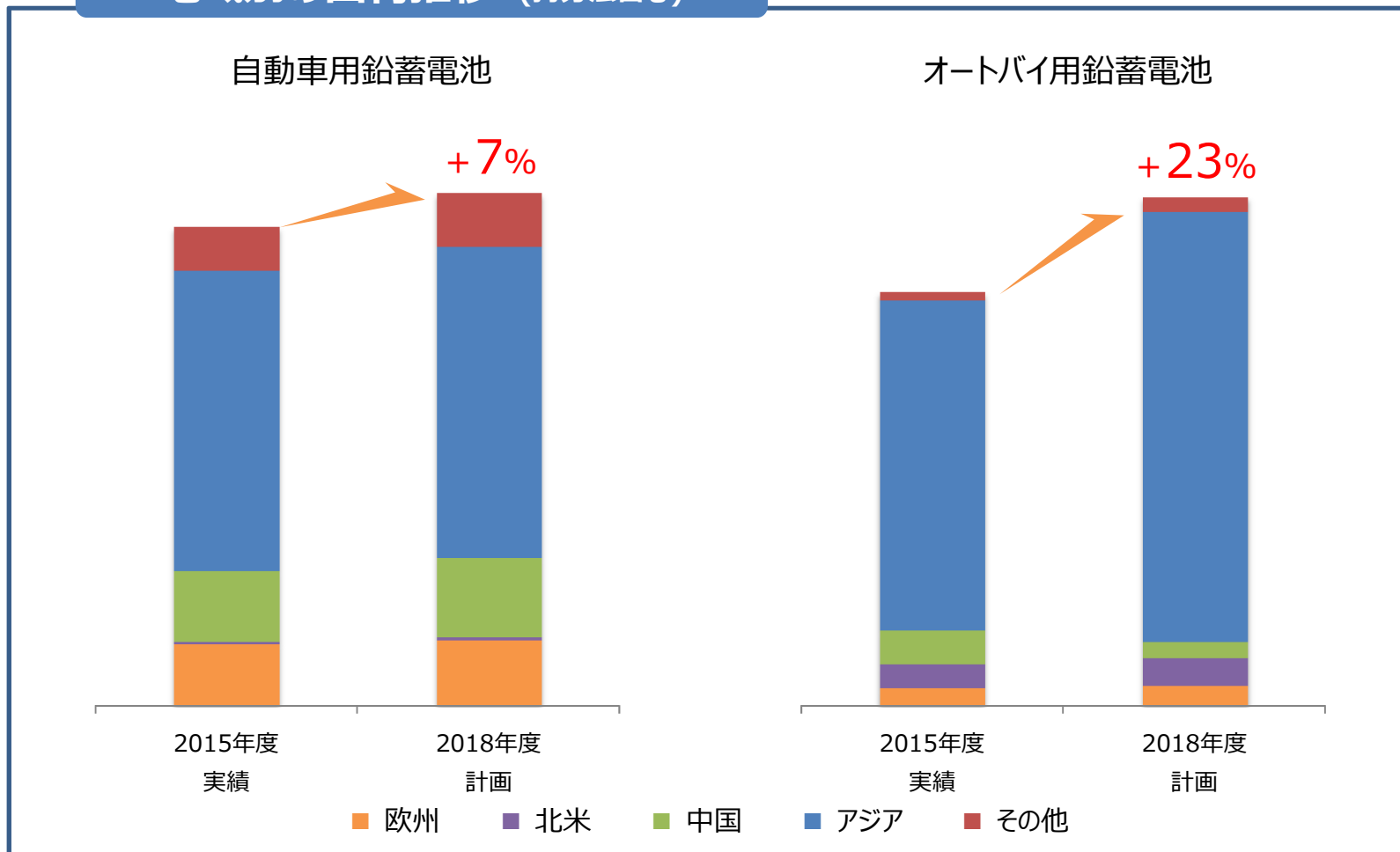
- ✓ 既存拠点の体質強化
- ✓ 未開拓地域へのビジネス拡大



## Ⅱ. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

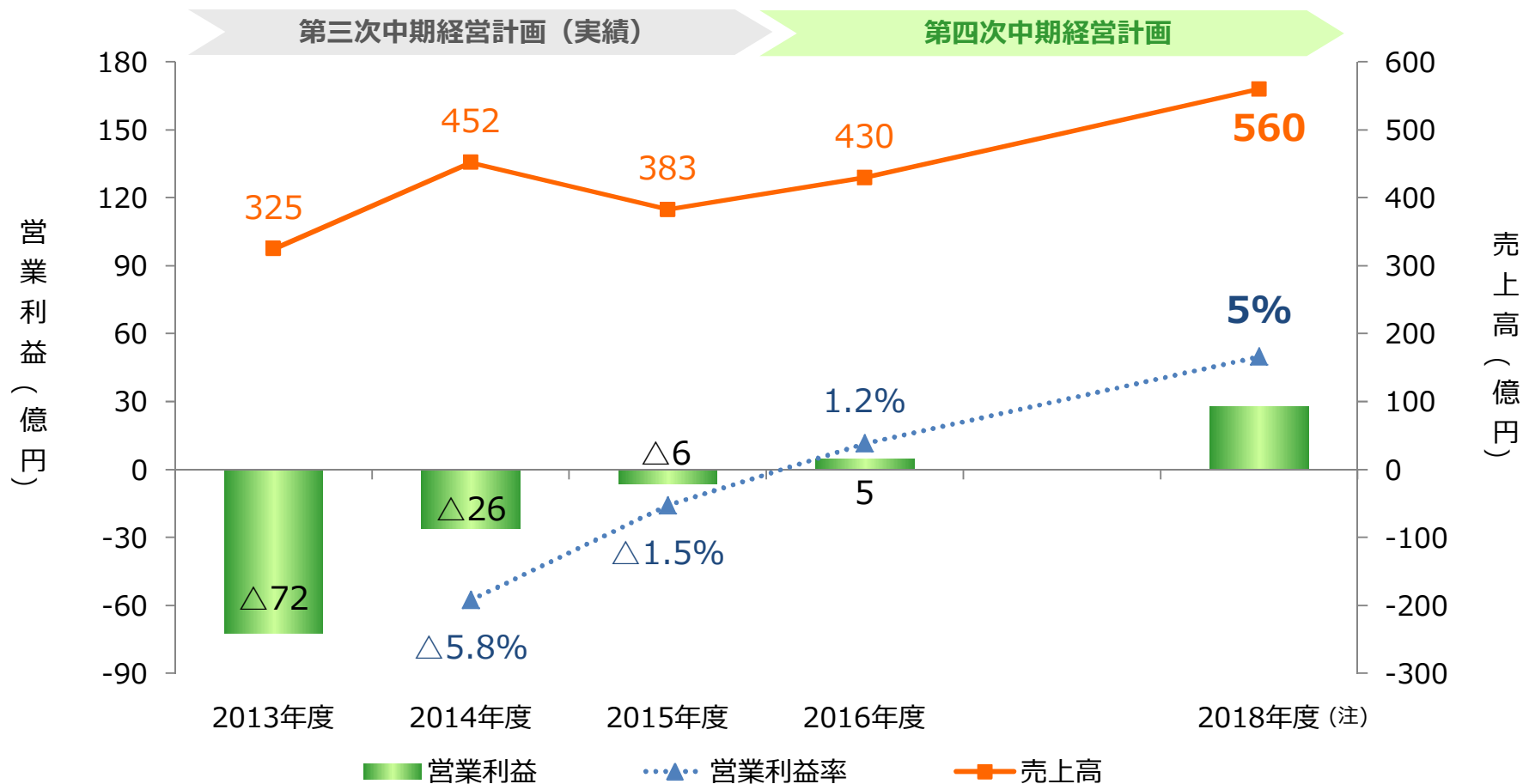
### 海外

#### 地域別の出荷推移 (持分法含む)



## II. 第四次中期経営計画 2. セグメント別計画

### 車載用リチウムイオン電池



(注1) 2016年度および2018年度の営業利益率はのれん償却前営業利益率、営業利益はのれん償却前営業利益です。

(注2) 上記数値は各国競争法当局の承認を前提としてPanasonic事業譲受の影響を加味しております。

## 車載用リチウムイオン電池

### 事業方針

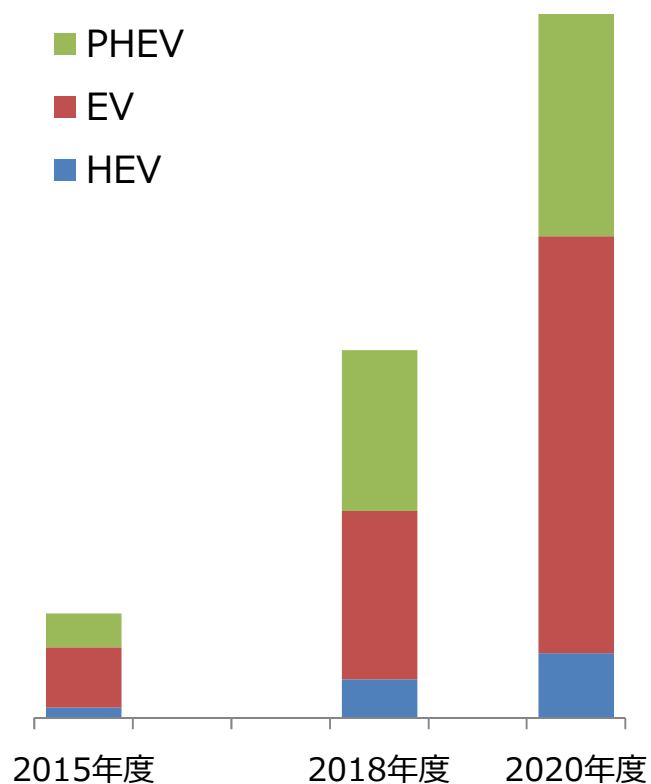
車載用リチウムイオン電池ビジネスを盤石のものとし、事業領域を拡大

### 戦略及び重要課題

- 車載用市場（電気自動車、プラグインハイブリッド車、ハイブリッド車等）の地位確立
- エンジン始動用12V、定置用等の市場開拓に向けた製品開発
- 海外企業との提携による事業拡大（欧州、中国等）

## 車載用リチウムイオン電池

車載用LiBの市場規模予測 (容量ベース)



※出所：富士経済電池関連市場実態総調査および  
矢野経済研究所推計より当社作成

### 強み

- ✓ 世界に先駆けた量産体制の確立により量産ノウハウを有する
- ✓ 幅広い採用実績（車載・産業・特殊）
- ✓ 研究開発力と品種対応力
- ✓ Boschとの将来展開

### 課題

- ✓ 高性能セルの開発
- ✓ 新規顧客の獲得
- ✓ コスト低減活動の推進

**利益を伴った拡大を目指す**

## その他

### ➤ 特殊電池の事業規模拡大

海洋から宇宙まで過酷な環境に耐える  
最高性能・最高品質の製品を提供



リチウムイオン電池 (高容量タイプ)



熱電池



H-II A/Bロケット用  
リチウムイオン電池

宇宙・航空

海洋

### 成長戦略

- ✓ 防衛装備移転三原則を契機に  
海外展開を拡大
- ✓ 新規事業の立ち上げ

### トピックス

#### 第2回宇宙開発利用大賞 『経済産業大臣賞』を受賞

- 受賞事例  
リチウムイオン電池による人工衛星電源の  
小型・軽量・長寿命化
- 評価
  - 世界に先駆けて人工衛星用リチウムイオン電池を開発
  - 人工衛星の打ち上げコストの大幅な低減と運用年数の飛躍的な向上に貢献
  - 100機以上の衛星への搭載実績



人工衛星用リチウムイオン電池



静止気象衛星「ひまわり8号」

(提供：気象庁殿)



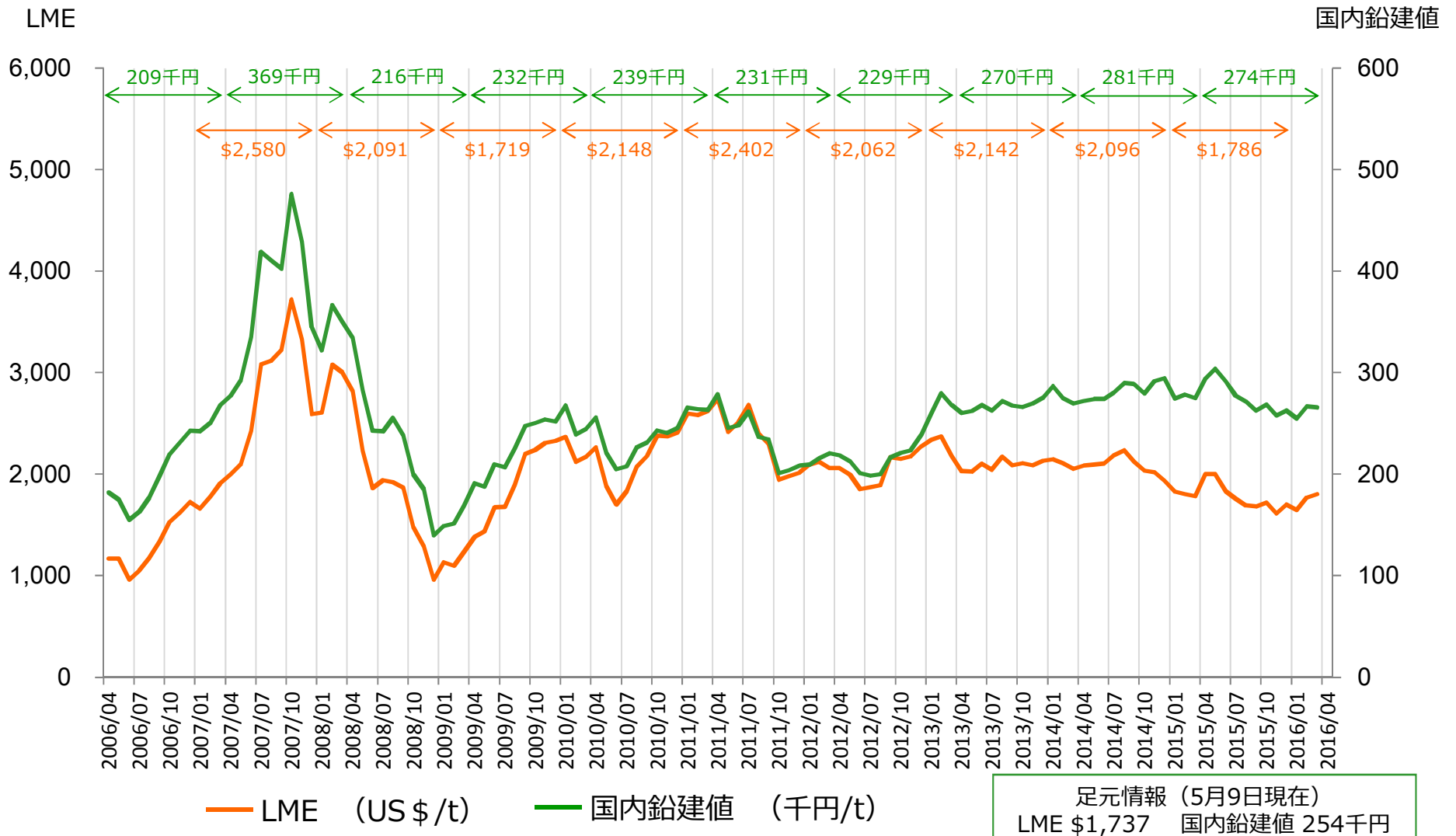
本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。  
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



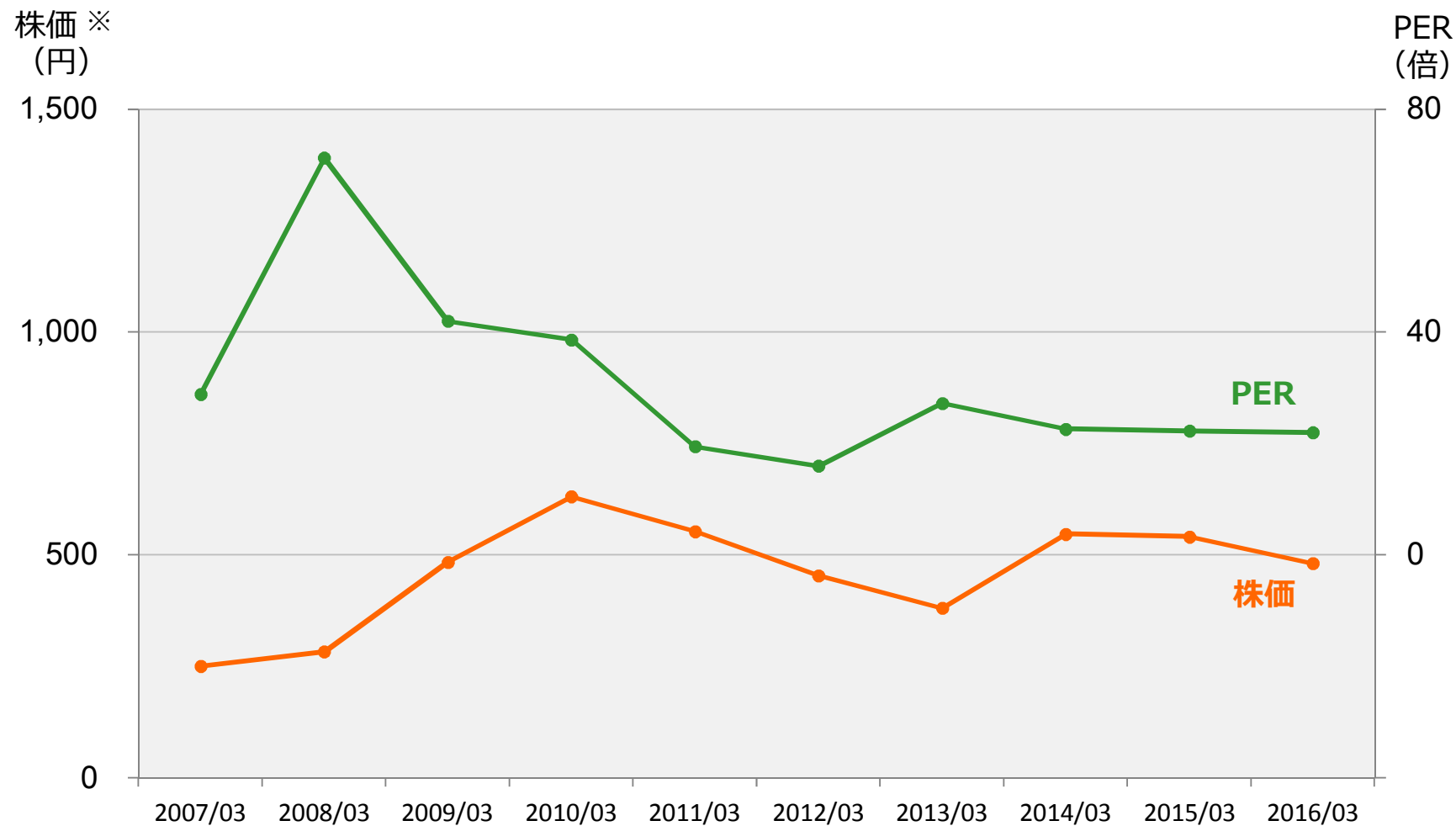
連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション  
コーポレート室（広報） 大道 由加 ・ 柿島 辰年  
Tel : 075-312-1214  
<http://www.gs-yuasa.com/jp>

## 原材料価格の推移



## 株価、株価収益率（PER）の推移



※ 3月最終営業日の終値

## 自己資本当期純利益率（ROE）、1株当たり当期純利益（EPS）、配当

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
ROE (%)	11.2	10.5	4.8	7.5	6.7	5.7
EPS (円)	28.39	28.42	13.97	24.18	24.33	21.88
1株当たり配当額 (円)	8	8	6	8	10	10 (予定)
配当性向 (%)	28.2	28.1	42.9	33.1	41.1	45.7

## 有利子負債、D/Eレシオ、自己資本比率、キャッシュフロー対有利子負債比率

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
有利子負債 (億円)	483	561	717	801	822	736
D/Eレシオ (倍)	0.43	0.55	0.62	0.64	0.63	0.54
自己資本比率 (%)	43.8	41.3	43.2	41.0	44.9	44.4
キャッシュフロー対有利子負債比率 (年)	1.9	8.0	4.0	4.2	4.3	2.5